

2019-2020年度

クラブ運営方針「新たなステージへ、確かな一歩を」

広島北ロータリークラブ週報

RI
THEME



Vol. 1612
2020年3月5日号

Rotary
Club of Hiroshima North



題字 京都伏見RC 杭道柏樹氏
五十にして天命を知る。
五十而知二天命一。

設立 1969年4月24日
承認 1969年6月28日

■会長 栗屋 充博
■幹事 島本 章生

事務局 広島市南区松原町1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
例会 毎週木曜日 12:30 会場 ホテルグランヴィア広島

E-mail hnrcc@world.ocn.ne.jp URL <https://www.hnrcc.jp/>

2020年3月5日(木)例会取りやめ

※定款第7条第1節(d)(3)項に基づき

前回例会報告

第2426回例会

2020年2月27日(木) 12:30～

【例会プログラム】

ロータリーソング 「われら広島北ロータリー」
来客紹介
寄付認証披露
会長時間 会長 栗屋充博
幹事報告 副幹事
委員会報告
ニコニコ箱の時間
卓話時間
『“食”を通した第三の居場所づくり』
矢野の家 代表 上 郁子 氏

【出席報告】 出席委員会

2020年2月27日(木) 会員総数102名

出席 85名 欠席 17名

来賓 2名 来客 1名

【来客紹介】 親睦委員会

上 郁子 様 (卓話来賓)

辰巳 珠美 様 (卓話来賓)

久保 弘睦 様 (広島陵北)

例会における

新型コロナウイルス拡大防止対策について

- マスク着用の奨励(特に咳やくしゃみ等の症状のある方は必ずマスクを着用する)
- 親睦委員会による出迎えの握手の中止
- 例会での「友好的握手」の中止
- 体調の優れない方は無理に例会に出席することはお止め下さい。
- 例会場入り口にはアルコール消毒液を設置しておりますので、ご利用をお願いいたします。

会長時間

会長 栗屋 充博

皆さん、今日は、お客様におかれましては、ようこそ当クラブにお越し下さいました。どうぞごゆっくりお過ごし下さい。

さて、今年度当クラブで地区補助金特別プロジェクトとして「こども食堂」の支援を実施しましたが、今日は卓話者として、支援先の「やの地域・こども食堂」の上郁子さん、辰巳珠美さんお二方にお越し頂いています。上さん、辰巳さん今日は当クラブの例会にお越し下さり、ありがとうございます。

その後我々の寄贈品は役に立っておりますでしょうか? 「食を通した第3の居場所作り」、後程の卓話を楽しみにしています。よろしくお願い致します。

さて、昨日会員の皆さんに、今大きな社会問題になっている「新型コロナウイルス感染症へのクラブとしての対応」についてのFAXとメールをお送り致しました。新型コロナウイルスは感染すると治療薬がないので対症療法しか出来ないため、自分の免疫でウイルスに対する抗体が出来るまで療養するしかなく、肺炎をおこすと重篤な状況にもなる、やっかいなウイルスです。感染を加速させないためにここ1～2週間の対応・対処が非常に重要だと厚労省の発表がありました。昨日夕方広島市も市が主催するイベント開催の可否に関する基本方針案を提示しました。それによりますと①重症化しやすい高齢者が参加者の半数以上をしめるイベント②多くの人が対面で会話をするイベント③食事が提供されるイベントについては中止・延期とし、その適用期間を明後日2月29日～3月15日とする、とのこと。併せて民間のイベント開催もこの方針案に準じるよう要請する、との事ですので、当クラブとしても今後の例会やクラブとして予定している行事をどうするか、クラブとしての対応を今日例会後の臨時理事会で検討致します。

一人一人が感染予防に努める事に加えて新たな感染グループ(コロー)を作らないよう留意することも重要なことだと思いますので、このことを踏まえて臨時理事会で検討し、検討結果を皆さんにFAXとメールでお送りしますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

先週20日の例会は職場訪問例会で、広島テレビさんの本社を当クラブ会員92名で訪問させて頂きました。今回の職場訪問例会は、職業奉仕小委員会と公共イメージ小委員会の合同企画で、「クラブとロータリーの活動を伝えるためにクラブ会員がメディアと話す機会を作ること」と「クラブとロータリーの公共イメージの向上のためにメディアの活用を学ぶこと」の二つを目的として実施頂きました。私自身は広島テレビさんの新本社ビルに入ったのは初めてで、失礼ながらあの大きなビルが1階から最上階まで全てのフロアを広島テレビさんが所有されていることを初めて知りました。毎週日曜日の深夜によく見る「進め! スポーツ元気丸」のスタジオに案内頂き、セットしてある椅子に島本幹事と並んで座ることができたことにも感動しましたが、何より当日の職場訪問例会に92名もの多くの会員の方々にご参加頂き、卓話を頂いた広島テレビ営業部長の倉田さんに、「広島北RCさんは大きなクラブなんですね」と本当に驚いた様子で仰って頂きましたので、当クラブの存在価値はともかくとして、存在感は感じ取って頂いたのではないかと思います。

職場訪問例会を企画・実施頂いた岡部理事、本田委員長始め職業奉仕委員会の皆さんと当日ご参加頂いた会員の皆様に改めてお礼を申し上げまして、会長時間とさせて頂きます。

幹事報告

副幹事 樽本 陽輔

《報告》

*3月21日(土)に開催予定のインターシティミーティングについて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

米山記念奨学会寄付認証披露



- 第1回米山功労者 濱本利寿会員・本田善昭会員・吉永征史会員
- 第2回米山功労者 坪内昭吉会員・杉町 孝会員・神農洪明会員
- 第3回米山功労者 水野勝会員・鈴木孝幸会員
- 第4回米山功労者 土井洋二会員
- 第6回米山功労者 庄子佳良会員

委員会報告

公共イメージおよび職業奉仕委員会より
*2月27日の職場訪問例会に関するお礼

ニコニコ箱 ニコニコ委員会

【会員出宝】

粟屋会員・杉町会員・島本会員・榎本会員・藤原会員
矢野の家 代表 上 郁子 様、辰巳珠美 様、本日は当クラブへようこそお越しくださいました。

粟屋会員・杉町会員・島本会員・榎本会員・藤原会員
先週の職場訪問例会は92人の参加で驚きました。担当の中根理事、松田委員長と岡部理事、本田委員長及び両委員会メンバーの皆さま、ありがとうございました。

岡部会員・中尾会員・菅会員・迫会員・佐々木会員・上田会員・三宅会員・小林孝憲会員・古谷会員 上さん、辰巳さん、今日の卓話よろしくお祈りします。

岡部会員・本田会員・高見会員・大之木会員・水野会員・小河会員 先週開催しました広島テレビ様での職場訪問例会には92名もの多くの皆様に参加頂きました。本例会をきっかけに会員の皆様とメディアの連携が一層深まれば幸いです。ご協力ありがとうございました。

浦会員 先週の例会では連続出席を表彰いただきありがとうございました。ご連続出席が途絶えないようがんばります。

西開地会員 長女が比治山女子高等学校を卒業します。中学から通い6年間よく頑張ってくれました。これから素敵な女性に成長してほしいと思います(^^)

重田会員◇ 先週2/19にお好み焼シンポジウムが開催されました。当日、尾木ママや有識者を招いて行ったパネルディスカッションにて、それぞれ専門的な視点から、お好み焼店による子ども食堂について考えました。広島のお好み焼文化と地域交流の形について考える良い機会となりました。広島北RCの方にもたくさんの方にご参加頂き、ありがとうございました。

当日計 37,000円 累計 1,082,000円

★=10,000円 ☆=5,000円 ◆=3,000円 ◇=2,000円

卓話時間

『“食”を通した第三の居場所づくり』

矢野の家
代表 上 郁子 氏 様



広島北RCの皆さま、今日はご招待いただきありがとうございました。そして私たちの「矢野の家」にすてきなプレゼントをしていただいたこと、本当に感謝しております。子どもたちも、とてもいい笑顔で喜んでます。その

写真を今日持ってまいりましたので早速ご覧いただけたらと思います。当日、贈呈式の様子です。子どもたちと一緒に、来たスーパウォーマーとともに記念撮影をしました。



これが頂いたスーパウォーマーです。なぜスーパウォーマーを頂いたかといいますと、なにせ矢野の家は築40年で本当に寒いのです。せつかく作った温かい料理も配膳している間に冷めてしまうという話を聞いていただいて、ではスーパウォーマーということでプレゼントしていただきました。このように、子どもたちがスーパウォーマーを囲んで一緒に食事をしています。おかげさまで温かいスープが飲めています。

私たちの「こども食堂」、子どもたちが50名から多いときには70名という、大人数の子どもたちがやってきます。その中には高齢者さん等、地域の方々もおられるのですが、その方々へ一緒にご飯を炊いて食事を提供しようと思うと、普通の一軒家ですとプレーカーが落ちてしまうのです。これはいけないということで、そういった話を聞きつけて、まずはインフラ整備をするほうが先じゃないですかということで、ありがたいことにプレーカーの工事をして、アンペア工事までしていただきました。

おかげさまで、こうやって安心してみんながご飯を食べることができています。これが、「ありがとう」というメッセージを込めながら子どもたちがピースサインしています。

おかげさまでホットプレートを使って、子どもたち自身が調理をするという経験ができるようになりました。ホットプレート3枚でも大丈夫で、今回ギョーザを自分たちが作って焼いているという状況です。そして焼きそばも、自分たちで一発懸命材料も切って調理をするといった体験活動に広がっています。

私たちが実際どんな活動をしているのか、矢野の家ってどういうところなのかを皆さんにご紹介したいと思います。先ほど申しましたように、安芸区にある本当に一軒家です。

私が嫁いだ先で、14年前に母が亡くなったのを機に10年間、空き家になっていました。目の前に畑もありましたが、もう荒れ果てたという状況から、私たちはここに拠点を置いてスタートしたわけです。

10年間も空き家でしたので、家もひどい状況で、一つ一つ手仕事で自分たちができることから始めました。休みの日を使っての作業でしたので、どのように片付けが終わるのかなというところでしたが、私たちが拠点を置こうと思った意味が、これまで行ってきた子

育て支援というのを、独りで孤立させない子育て、母親独りが孤立しないような、地域みんなが支え合っているような子育てにしたいという思い、そして地域課題を地域の方に知ってもらえるきっかけになるという思いで、当時は一生懸命片付けておりました。

86歳の方も看板作り、そして子どもたちと一緒に、できることをやってくれています。そして平成28年8月、半年かかったのですが地域に向けてお披露目を開催し、ここをスタートしました。

矢野の家の目指すものです。漠然として、地域に拠点を置いてやりやすよというのではなく、やはり柱とするものをきちんと置いておこうと、私たちは三つを掲げています。

子どもから高齢者まで誰もが来られる地域の家、第三の居場所です。これは学校でもない、家庭でもない、第三者となる地域の方々や大人との触れ合いの中での居場所ですね。それは高齢者さんも一緒ということで、第三の居場所といったことです。人と人の支え合い、人とつながるきっかけづくりを、ここでつくってほしいということです。健康で楽しい暮らしがあることを目指しています。

そして地域の活性化です。子どもたちは、こういった拠点があることで、笑顔でやってきます。そこを支えてくださるのが地域の方々、私たち世代であり、それよりもっと上の、人生の先輩の方々。この方々が一緒に交流することによって相乗効果が生まれ、元気なまちづくりになると信じ、地域の活性化ということを目指しております。地域、子育て、健康づくり、この3本柱がつながり合うことを念頭に置いて、毎月いろいろな他世代交流のイベント等を行っています。

どんなことをやっているのかです。毎週2回、木曜日と金曜日にオープンスペースとして開放しています。まだまだ残念ながら、ほかの曜日は、皆、仕事を持っての活動ですので、この2日間に集中して頑張っております。毎月、世代に合わせたイベントや他世代交流のイベントを開催しております。そして広島市の介護予防拠点となりまして、週に1回の健康体操、月に1回の認知症カフェ、そして介護予防教室、大人食堂等を不定期で開催しております。今日も、私たちは来る前に「これから高齢者さんの健康体操があるので準備をお願いね」と言って若者に託し、地域の方に託し、出掛けてまいりました。私たちがいなくても、そうやって開放できることを本当に感謝しています。

今回ご支援いただきました、月に2回ある矢野地域子ども食堂です。私は当初、地域子ども食堂をやろうと思ったときに、広島県から子どもの貧困対策という言葉が先に走って報道されていたので、そうではないなという思いがずっとあったのです。子ども食堂は貧困というように狭めてしまうと、本当に対象となる子どもたちは誰も来ません。「自分が困っています、誰か」というような子なんて誰もいないのです。みんな普通に学校に行き、普通に生活している。そんな中でも困っている子、そして、それは私たち世代、子育てをしているお母さんも、みんな同じだと思うんですね。なので、あえて「地域・こども食堂」ということで、地域の人も子どもも、みんなが来られて支え合っているような食堂にしたいという思いで、このようなネーミングにしました。

ここで学習支援というか、宿題のお助けをやっていたのですが、そこから発展して今「やのジユク」もやっております。私たち世代にとって宿題をするというのは当たり前のことだったのですが、実際、地域子ども食堂に来る子どもたち、初めて宿題を学校に提出したという子がいたんですね。学校から帰って宿題をするということが定着していない。

なぜかという、きちんと見てくれている保護者の目というか大人の目がなかったが故に、きちんとできているのか、これが大丈夫なのか、きちんと出さなきゃいけない、そういったところができていなかったのです。けれども、ここに来たときに誰かが見てくれているという安心

感から、きちんと宿題をやりあげ、提出し、その喜びを学校の先生から連絡いただきました。ここでの活動が子どもたちに変化をもたらしているよという、うれしい言葉を頂きました。

矢野地域子ども食堂をとおして感じたことです。子どもたちにも本当に変化が出てきました。地域を知っていく上で、子どもたちの本当に抱えている、その子の背景であったりか問題点であったりということを、しっかり見るできるようになりました。

なぜ、この子はとても元気なのだけれど、来るたびに問題行動を学校でも地域でも起こしているのかな、どうしてなのだろうというところで、その子と接すると、とても明るくていい子なのです。そんなことをするような子ではないのですけれど、その子の背景が、だんだん回を重ねることによって見えてきました。これは本当に私が目指したかった、子どもたちの「本当に助けて」といっているメッセージを、今、私たちが受け止められているのかなという思いで、その子のお母さんや学校の先生とも連携しながら、いろいろな諸問題に対して対応していています。

なので、先日も、その子から「ごめんなさい」という手紙がポストに入っていて、「実は僕はこういうことをしてしまいました。ごめんなさい。なので、これを返します」とポストに入っていました。そして「何月何日、頑張っている触れ合い発表会があるので、ぜひ見に来て下さい」というお手紙も添えてありましたので、早速、矢野の家のみんなと見に行ったんですけど、そういったいろいろな子どもたちの姿が見られています。

先生方とも連携が、少しずつですが取れていっています。私たちは会報誌を毎月出してしまっていて、学校で全校生徒の方に配らせてもらっているのです。そのときに職員室に入るので、校長先生であったり主幹の先生であったり教頭先生であったり、矢野の家での地域での子どもの様子を私たちは伝えていきます。学校での様子というのは個人情報的な問題がありますので、なかなか知ることはできないのですが、なんとなく私たちの話を受け入れてくださって、「そうよね」というかたちで、少しずつですが同じ目線で子どもたちに配慮していけるようになっていきます。

お母さんたちにも、地域の高齢者さんにも、地域の居場所ってなんだらうかというところを理解いただけているように思います。子どもたちも、この間、社会の勉強、総合的な学習の時間かな、自分たちのまちをよくする仕組みでどんなところがあるといったところに、うれしいことに6年生も3年生も、この矢野の家を、地域子ども食堂を挙げてくれたのです。これは子どもたちにとって、矢野の家の意味というのが少しずつ浸透していついてくれているのだな、地域で困ったときに助けてくれる、地域のお母さん、地域のおばあちゃん、地域のお兄さんがいる場所というように、子どもたちが捉えてくれているのだなと感じました。

そして、地域を越えたつながりで、今回、広島北RCの皆さまにご支援いただいたのもそうですし、2カ月に1回、不定期で社会福祉法人の方、シェフの方がご厚意で来ていただいて、子どもたちにおいしい料理を提供してくださっています。そういったつながりができて、子どもたちは「矢野の家はご飯が食べられる児童館みたい」というように言ってくれています。

拙い話で報告のようなかたちになってしまったんですけど、矢野の家の活動をとおして、たくさんの方々とお会いしました。高齢者さん、「まさか、この年になってできることが、思わなかった。ありがとうばかり言う自分だったけれど、ここに来て子どもたちや若い世代にありがとうと言ってもらったことで、本当に自分がここにいてよかったんだ、自分にもできることがあった。頑張りたいという思いにつながった」という高齢者さんの声もありました。これからも、こういった居場所、誰にとっても安心して来られるような居場所をつくっていきたく思っております。今日はどうもありがとうございました。